

第2回専門領域推進部内部障がい理学療法領域症例検討会 活動報告書

日 時：令和4年11月17日（木） 18:30～20:00

形 式：オンライン開催（Zoom）

内 容：症例検討

1. 末期腎不全を併存した大腿骨頸部骨折の症例

発表者：本間大智（山形市立病院済生館） 座長：荒井珠美（公立置賜総合病院）

2. 本人の身体機能と希望の乖離が大きく自宅退院に難渋した全身性エリテマトーデスの一例

発表者：高橋香衣（公立置賜南陽病院） 座長：海老名陽介（公立置賜総合病院）

参加人数：第一席；27名 第二席；25名

内容の詳細：

第一席：本間大智氏より、骨折術後の透析患者に対して、神経筋電気刺激療法や歩数計を用いた自主運動指導が奏功し無事自宅退院に至った症例について報告いただいた。参加者より電気刺激療法の効果や、必要カロリー量、タンパク質摂取量について等多くの質問・助言があげられた。透析による時間的制約や身体・栄養管理の難しさがある中、どのように介入していくのが良いか活発な議論がなされた。

第二席：高橋香衣氏より、SLE罹患後の治療により、著しく身体機能・ADL能力が低下した症例の自宅退院に向けた介入について報告いただいた。緩解と増悪を繰り返す疾患に対して、どのように機能的予後を考えるか議論がなされた。参加者からは投薬内容や、ステロイドミオパチーの特徴についての助言があったことに加え、本症例の自宅での具体的なADL動作の指導方法、環境設定、介護保険サービスの内容についても議論が及んだ。

どちらも内部疾患を有していることで、身体機能や活動が制限或いは低下した症例であった。高齢化により様々な疾患を重複した患者が増える中、内部障がいによる影響を考慮した介入の大切さを参加者と共有した。

今年度2回目の症例検討会となったが、発表者より提示された検討内容について、比較的経験のある参加者からの助言や座長の進行により、一步踏み込んだ内容にまで検討が及び、実り多いものになったと考える。今後ともこのような機会を通して会員の教育・研鑽の一助となるよう取り組んでいきたい。

文責 黒坂浩平